

# 大祓詞

たかまのはらにかむつまります すめらがむつかむるぎ かむろみのみこともちて やほろずのかみたちを

高天原に神留り坐す 皇親神漏岐 神漏美の命以ちて 八百萬神等を

かむつどへにつどへたまひ かむはかりにはかりたまひて あがすめみまのみことは とよあしはらのみづほのくにを

神集へに集え賜ひ 神議りに議り賜ひて 我が皇御孫命は 豊葦原水穗國を

やすくとたたひらけくしろしめせと ことよさしまつりき かくよさしまつりしくぬちに

安國と平けく知ろし食せと 事依さし奉りき 此く依さし奉りし國中に

あらぶるかみたちをば かむとはしにとほしたまひ かむはらひにはらひたまひて こととひしいはね

荒振る神等をば 神問はしに問はし賜ひ 神掃ひに掃ひ賜ひて 語問ひし磐根

きねたち くさのかきはをもことやめて あめのいはくらはなち あめのやへぐもを

樹根立 草の片葉をも語止めて 天の磐座放ち 天の八重雲を

伊頭の千別きに千別きて あまくだしよさしまつりき かくよさしまつりしよものくなかと

おほやまとひだかみのくにを やすくととさだめまつりて したついはねにみやばしらふとききたて たかまのはらにちぎたかしりて

大倭日高見國を 安國と定め奉りて 下つ磐根に宮柱太敷き立て 高天原に千木高知りて

すめみまのみことのみづのみあらかつかへまつりて あめのみかげ ひのみかげとかくりまして

皇御孫命の瑞の御殿仕へ奉りて 天の御蔭 日の御蔭と隠り坐して

やすくととたいらけくしろしめさむくぬちに なりいでむ あめのますひとらが あやまちおかしけむ

安國と平けく知ろし食さむ國中に 成り出でむ 天の益人等が 過ち犯しけむ

くさぐさのつみごとは あまつつみ くにつつみ ここだくのつみいでむ かくいでば あまつみやごともちて

種類の罪事は 天つ罪 國つ罪 許許太久の罪出でむ 此く出でば 天つ宮事以ちて

あまつかなぎを もとつちぎり すえうちたちて ちくらのおきくらにおきたらはして

天つ金木を 本打ち切り 末打ち断ちて 千座の置座に置き足らはして

あまつすがそをもとかりたち すえかりきりて やはりにとりさきて あまつのりとのふ とのりごとをのれ

天つ菅麻を本刈り断ち 末刈り切りて 八針に取り裂きて 天つ祝詞の 太祝詞事を宣れ

かくのらば あまつかみは あめのいはとをおしひらきて あまのやへぐもをいつのちわきにちわきて

此く宣らば 天つ神は 天の磐門を押し披きて 天の八重雲を伊頭の千別きに千別きて

きこしめさむ くにつかみはたかやまのすえ ひきやまのすえにのぼりまして

聞こしめさむ 國つ神は高山の末 短山の末に上り坐して

聞こし食さむ 國つ神は高山の末 短山の末に上り坐して

聞こし食さむ 國つ神は高山の末 短山の末に上り坐して

聞こし食さむ 國つ神は高山の末 短山の末に上り坐して

聞こし食さむ 國つ神は高山の末 短山の末に上り坐して

たかやまのいぼりひきやまのいぼりをかきわけて

きこしめさむ

かくきこしめしてば

高山の伊褒理短山の伊褒理を掻き別けて

聞こし食さむ

此く聞こし食してば

つみといふつみはあらじと

しなどのかぜのあめのやへぐもをふきはなつことのごとく

罪と云ふ罪は在らじと 科戸の風の天の八重雲を吹き放つ事の如く

あしたのみぎりゆふべのみぎりを

あさかぜゆふかぜのふきはらふことのごとく

朝の御霧夕の御霧を 朝風夕風の吹き拂ふ事の如く

おほつべにをるおほふねを

へときはなち

ともときはなちて

おほうなばらにおしはなつことのごとく

大津邊に居る大船を

舳解き放ち

艦解き放ちて

大海原に押し放つ事の如く

をちかたのしげきかもとを

やきがまのどがまもちて

うちはらふことのごとく

彼方の繁木が本を 焼鎌の敏鎌以ちて 打ち掃ふ事の如く

のこるつみはあらじと

はらへたまひきよめたまふことを

遺る罪は在らじと 祓へ給ひ清め給ふ事を

たかやまのすえひきやまのすえより

さくなだりにおちたぎつ

高山の末短山の末より 佐久那太理に落ち多岐つ

はやかはのせにます

せおりつひめといふかみ

おほうなばらにもちいでなむ

速川の瀬に坐す 瀬織津比売と云ふ神 大海原に持ち出でなむ

かくもちいでいなば

あらしほのしほの

やほぢのやしほぢのしほの

やほあひにます

此く持ち出で往なば 荒潮の潮の 八百道の八潮道の潮の 八百會に坐す

はやあきつひめといふかみ

もちかかのみてむ

かくかかのみてば

速開都比売と云ふ神 持ち加加呑みてむ 此く加加呑みてば

いぶきどにます

いぶきどぬしといふかみ

ねのくに

そのくににいぶきはなちてむ

氣吹戸に坐す 氣吹戸主と云ふ神 根國 底國に氣吹き放ちてむ

かくいぶきはなちてば

ねのくに

そのくににます

はやさすらひめといふかみ

此く氣吹き放ちてば 根國 底國に坐す 速佐須良比売と云ふ神

もちさすらひうしなひてむ

かくさすらひうしなひてば

つみといふつみはあらじと

持ち佐須良ひ失ひてむ 此く佐須良ひ失ひてば 罪と云ふ罪は在らじと

はらへたまひきよめたまふことを

あまつかみ

くにつかみ

やほろづのかみたちとも

きこしめせとまをす

祓へ給ひ清め給ふ事を 天つ神 國つ神 八百萬神等共に 聞こし食せと白す